

平成21年度 事業計画書

学校法人 文理学園

目 次

【 1 】 学園の事業計画（概要）

1 . 学園の教育環境整備

- (1) 日 本 文 理 大 学 3
- (2) 日本文理大学附属高等学校 3
- (3) 日本文理大学医療専門学校 3
- (4) NBU大分美容専門学校 4

【 2 】 設置校の事業計画

1 . 日 本 文 理 大 学

- (1) 教育活動 4
- (2) 研究活動 5
- (3) 学生募集活動 5
- (4) 就職活動 5
- (5) その他 6

2 . 日本文理大学附属高等学校

- (1) 教育活動 6
- (2) 広報活動 7
- (3) 就職・進学活動 7

3 . 日本文理大学医療専門学校

- (1) 教育活動 7
- (2) 広報活動 8
- (3) 就職活動 8

4 . NBU大分美容専門学校

- (1) 教育活動 9
- (2) 広報活動 9
- (3) 就職活動 9
- (4) その他 9

平成21年度 事業計画書

学校法人文理学園は、「産学一致」の建学の精神に基づき地域社会との連携をこれまで以上に緊密なものとし、中長期改善施策として、平成25年度には「定員充足率100%超」および「消費収支黒字化」を目標とし、社会のニーズに応えられる人間力の育成と専門的な知識・能力を兼ね備えた人材を社会に送り出すため、教育環境を更に充実させるための財政基盤を堅固なものにすることを念頭に置き、平成21年度事業計画を作成した。

【 1 】 学園の事業計画（概要）

1. 学園の教育環境整備

学園の教育環境整備を以下のとおり計画する。

【共通検討事項】

老朽建物施設設備改修計画および建物耐震化対策、省エネ推進および地上デジタル放送対応を実施する。

（1）日 本 文 理 大 学

1号館（講義棟）AVライブラリー室の改修。

11号館（航空宇宙工学科棟）エントランスホール新築工事。

13号館（事務棟）1階大学教育サービスセンターレイアウト変更および内装工事。

18号館（経営経済学部棟）講義室へAV機器の導入。

25号館（NBU情報センター）外壁漏水対策工事。

第1体育館内装工事と音響設備の常設と第2体育館空調設備工事。

第3寮浄化槽公共下水道管への接続と廊下廻り内壁補修工事。

老朽化した第4駐車場監視カメラ更新。

最近の学生の体型に合った講義机への更新

学内ゴミ箱の分別化検討。

屋外への喫煙所の設置計画。

（2）日本文理大学附属高等学校

校舎3階男女トイレ改修。

機械実習室整備。

教室の空調機設置推進。

PCB混入照明器具調査および交換作業。

（3）日本文理大学医療専門学校

職員室OAフローア－工事。

校内案内板設置。

教員室の床上げおよび電気系統配線工事の実施。

実験実習室内の備品の整理・整頓の励行。

(4) NBU大分美容専門学校

1階空室の有効利用として、学生ホールとしての活用を計画し、正面玄関周辺のイメージアップ向上。

美容実習室の電源容量不足を解消する電源増設の検討。

【2】設置校の事業計画

1. 日本文理大学

(1) 教育活動

学生満足度向上・退学防止策

WGを中心に策定し実施する。

自己評価報告書改善・向上策および第三者評価実地調査での指摘事項への対応

-) 教育理念実現のための科目構成と内容の見直し
-) 人間力育成教育を中心とした教養教育の再編
-) 留学生受け入れの大学ビジョン・アドミッションポリシーの策定
-) 留学生、Sクラス等の学習支援体制の見直し
-) 推薦入試の定員（50%以下）の遵守
-) 授業回数のは正
-) 成績評価基準のシラバスへの明記
-) 各教員の授業に関する資料閲覧の実施
-) 職員の業務量の適正化と効率化のための職位・人員配置の整備
-) Web上の広報活動および情報発信の活性化と公正かつ適切に行える体制確立

xi) 構内の安全、衛生環境の整備・充実

xii) 「チャレンジ40」の計画実現、その他

中長期改善施策の策定とからめて学科の在り方等組織についての方向性を定め、入学者増加につながるように教育課程を見直し、学生指導を遂行する。

昨年度の本学における社会人基礎力育成が評価され、今年度も引き続き育成を図るため、経済産業省から新規採択事業として選定された「平成21年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」を活用し、社会人基礎力の育成の取組みを一層充実させる。

人間力育成プログラムのさらなる改善を目指し、教養基礎科目・専門教育科目の各科目間の連携をこれまで以上に進める。

基礎学力・キャリア教育の補習、自己学習の補強を目的としたe-learningシステムの導入を

図る。

(2) 研究活動

個々の研究室における研究を活性化させ、学部教育の集大成としての卒業研究やゼミ研究の充実を図る。

「私立大学学術研究高度化推進事業（文部科学省）」によるマイクロ流体技術研究所における昆虫型飛翔ロボットをはじめとして「平成21年度科学研究費補助金（日本学術振興会）」などによる外部資金を活用して研究活動を推進する。

県内8大学等による「地域連携研究コンソーシアム大分」の一員として、県内の研究活動を共同で推進する。

「産学官民連携推進センター」の充実を図り、共同研究・委託研究等につなげる。

(3) 学生募集活動

平成22年度入試では下記方針のもと、募集活動を行う。

）すべての入試区分で受験生にある程度の負荷を与え、「成長させる入試」を目指すことにより、高校・保護者などからの信頼を得るようにする。

）多様な受験生に対応する多様なレベルの入試を実施し、「数の確保」と「質の保証」の両立を目指す。

）受験生が志望校を決定するタイミングに合わせた入試区分を設定する。

別科日本語課程は、本年度から年間定員120名（年間40名増）となり、定員充足に向けて学生募集活動を推進する。

「日本高等教育評価機構」の認定を受けたことを周知させるため、名刺等にロゴマークを掲載し、本学が教育機関としての条件を十分に満たしていることの広報活動に努める。

大分ケーブルテレコム（株）との提携協定締結の趣旨を生かし、地域の発展・産業振興・人材育成を図る。

引き続き、日本文理大学学友会による「防犯パトロール」を実施し、安全な地域づくりに寄与するよう努める。

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業（文部科学省）」を活用し、地域の人材育成貢献に努める。

(4) 就職活動

面接試験対策の強化、公務員試験対策講座等の開講、就職試験ガイダンスの開催、学内合同企業セミナーの開催などにより就職希望者に対し内定率100%を目指す。

同窓会（一木会）との連携を強化して企業開拓を推進する。

夏季休業中に2・3年生を対象に県内企業会社見学会を実施し、早期に就職活動への意識づけを行う。

留学生には、別個に就職ガイダンスを実施し、日本国内で就職を希望する学生への対策を充実させる。

(5) その他

図書館利用者拡大のため、教育現場との連携（図書館を活用した講義・ゼミ等）を一層強化し、その際必要となるサポート体制（資料、利用環境）について積極的に取り組む。

仁徳大学（韓国）から本学への編入学、短期生受入に関する協定を締結するための業務を推進する。

ネットワークの維持・改善のため教育や業務に関係ない大量Webアクセスを効果的に検知・遮断する運用を確立する。

GAKUEN、UNIVERSAL PASSPORTの安定的運用を継続するとともに、教員の活用を推進する。

2 . 日本文理大学附属高等学校

(1) 教育活動

基本的生活習慣の確立

- ）「見逃さない、見放さない、甘やかさない」を合言葉に、校則や時間の厳守、身だしなみの整齊を正しく粘り強く指導する。
- ）校内外を問わず、大きな声ですがすがしい挨拶を心がけさせる。
- ）携帯電話や交通などマナー全般を守る態度を養う。

学力の向上

- ）教職員は授業に対する創意工夫を凝らし、生徒の実力に応じて充実した授業を行う。
- ）学力不足者に対しては、放課後の時間を有効に利用し、基礎学力補習（国語・数学・英語）を実施し、基礎学力の定着と向上を図る。
- ）各学科において資格取得へチャレンジするよう生徒の能力向上に努力する。

部活動の強化

- ）運動部における競技力の向上と、高校生らしいスポーツマンとしての資質を養うなかで、他の生徒の模範となるような生活態度、生活習慣を養う。
- ）部活動の指導にあたっては、体罰を一切行わず、高校運動部の生徒としての規律を遵守させ、これまで以上に熱心に指導にあたる。
- ）文化部においては、心を豊かにするための情操教育を通じて、礼儀作法など社会に通用する人材の育成を図る。

特別進学コースの特色作り

- ）補習体制や内容の精選により、生徒の学習能力の向上を図る。
- ）佐伯市および県南地域で特別進学コースのブランド化を図る。

大学との連携

大学および学園施設設備の有効利用をする。

教育力の向上

学校全体のレベルアップを目指し、教職員の研修・研鑽による教育力向上を図る。

情報の共有

教職員間、各部署での「ホウ、レン、ソウ、カク（報告、連絡、相談、確認）」を徹底することにより、生徒指導や学校運営にあたる。

(2) 広報活動

地域社会への貢献として、ボランティア等の地域活動参加により、地域との信頼関係を構築し、他人との係りを通じて思いやりの心を育ませる。

「親子パソコン教室」等の開催により、地域小学校PTAとの連携を図り、本校教職員の教育力や生徒の資質をアピールする。

生徒募集

）地域との連携を強化し、地元で根ざした「生徒が行きたい学校」の場を創造する。

）地域の塾等も訪問の対象としていく。

）中学との連携強化、中高連絡員の早期生徒募集活動、大分県南以外の広域を対象とした生徒募集の取り組みを強化する。

(3) 就職・進学活動

進路指導の強化として、進学したい学校へ合格させるための学力の向上、日本文理大学への学生確保に努力する。就職先の開拓を行うとともに、社会人としての資質・学力を養い、就職を確実なものとする。

3. 日本文理大学医療専門学校

(1) 教育活動

国家試験合格率90%以上を目標に、学生への支援体制を強化する。

国家試験対策として、3年生対象の勉強合宿を8月に湯布院研修所にて実施する。

担当教員は、授業内容の理解度が個別に把握できるよう、学生とのコミュニケーションを密にする。

定期的に行う模擬試験の成績で、得点が6割を下回る学生には学習教科指導を行う。また、指導に当たる教員は複数人（2～3名）で指導する。

不得意科目を克服させる方策として、授業時間外も学生の対応にあたる。

学生全員に定期的な個別面談を実施し、学習面・生活面全般の相談に対処する。

提出を義務化している学習報告書を担当教員が内容を精査し、個別指導を徹底する。

フレッシュマンセミナーを開催し、新入生間および教員とのコミュニケーションを図り、学校生活に早く溶け込むようにする。

精神的な悩み・不安を持つ学生に対し、クラス担任だけでなく全教職員が対応に当たると共に、日常的に学生の動向に注意を払う。

成績不良者に対しては、三者面談を実施する。

学生数の増加による学外臨床実習先の不足を補うため、実習先病院の開拓を推進する。特に

福岡県内の実習病院が不足しているため、当該地域の開拓に注力する。

退学者を撲滅させる対策を全校挙げて取り組む。

教員の資質向上のため、研修会を実施する。

- ・外部講師を招聘した研修会（1回/年）
- ・学会、学術会議に積極的に参加し、研究発表を行う。
- ・模擬講義を夏休みに実施し、授業内容について建設的な意見交換を行う。

学生による授業評価アンケートを全学科1・2年生対象に実施する。（6月）

伝染病感染防止のため、新入生対象の抗体検査を実施する。（麻疹、風疹、水痘、B型肝炎）

防災訓練を実施する。（4月）

（2）広報活動

学生の安定確保を重点目標にし、今年度6回実施する入試で200人以上の出願者を確保する。

体験型オープンキャンパスを7月・8月に実施する。

学校見学説明会は、参加希望者が1人でも毎週土曜日に実施する。

広報専従者を4名固定化し、学内外の広報活動にあたる。また、3年生が学外の臨床実習に行っている間と夏休みの期間は1～2名増員する。

広報専従者は開催するイベントにおいて主導的な役割を果たす。

学外で実施されるガイダンスには2名体制で臨み、参加高校生に本校の特徴を積極的にアピールをして、オープンキャンパスおよび学校見学説明会へ動員する。

本校のホームページを随時リニューアルし、広報の一助とする。

広報の研修会を2回実施する。（6月、8月）

（3）就職活動

進路セミナーを各学年4回実施し、そのうち1回は卒業生を招いて、パネルディスカッション形式により、先輩からのアドバイスをもらう形で実施する。

授業時間外に、国家試験対策講座を随時実施する。

本来取得する国家資格とは別に資格取得をさせる。

診療放射線学科	放射線取扱主任者第1種、第2種（国家資格）	8月
臨床検査学科	薬学検定試験	（認定資格）6月、11月
臨床工学科	第2種ME技術実力検定試験	（認定資格）9月

4 . NBU大分美容専門学校

（1）教育活動

美のプロフェッショナルとしての未来を造る人間力の育成を図り、学生が伸び伸び・生き生きと学べる環境の中で、「夢見る力」「挑戦する力」「考える力」「表現する力」「感謝する力」を、授業を通じて教育していく。

全教員が連携を取りながら質の高い教育を実践するために、授業研究を進める。

生徒の満足度を高めるイベントを企画・運営し、活気あふれる学校作りをする。
生徒一人ひとりに合せた指導を行い、苦手科目を克服させる。
コンテストへの参加意識・目的意識を高めて上位入賞を目指す。
国家試験対策プロジェクトを立ち上げ、昨年に続き100%合格を目指す。
昨年度のマナーブックを進化させ、生徒の挨拶、服装、清掃やその他マナーに関する生活指導を行い、指導の徹底・継続を図る。
教職員間の連携を密にして、各教員が生徒に対して同じ指導が出来るよう取り組む。

(2) 広報活動

生徒募集数を60名に設定し、確保に向けて最大限努力する。
上記内容を実現するためオープンキャンパス参加数500人を目標にする。
学外ビューティーショーを企画・実施し、本校の宣伝をする。
サロンや様々な分野との連携を強め、業界全体を盛り上げる。

(3) 就職活動

有名サロンから講師を招き、生徒により多くの体験をさせる機会をつくる。
いろんな資格が取得できるようサポートを行い、対策講座を設ける。

(4) その他

月曜日に運営委員会を開催し、1週間のスケジュールの確認を行う。
職員会議には必ず翌月行事の詳細を提出し、行事がスムーズに行われるよう早めに準備する。
学科・学年・分掌の「ハウ、レン、ソウ(報告、連絡、相談)」を徹底する。